

1. はじめに

この作品は「さすまた」や「チュパカブラ」など、想像力が豊かであれば、ちょっぴりいやらしく聞こえてしまう単語で構成された認知シャッフル睡眠法——即ち「えっちシャッフル睡眠法」(?)のシナリオとなっております。そのため、そういうのが苦手なヒトにはまるで向いていません。

しかし、勘違いしてほしくないのはこれが「全年齢向け」であることと、聞き手を「性的に興奮させる要素」は何もないということです。チュパカブラという未確認生命体で興奮できる人間なんてそうそう居ませんからね。

とどのつまり、これはまったくもって健全なシチュエーションボイスであり、全年齢ASMRであり、最高の睡眠BGMなのです。

それをよもや、R18みたいに扱う人間のほうがよほど歪んでいらっしやる。耳元で「チュパカブラ」とささやくコンテンツのどこに何を感じているんだ。

そうは思いませんか？

耳元で息を吹きかけられることのほうが、よほど官能的では？
というか、そもそも全年齢ASMRって矛盾してませんか？

してなかったらごめんなさい。

2. あらすじ

朝、眠っている幼なじみを起こしに行くあなた。カーテンをシャーッと開け放つと、「うわっ、眩し。もう朝じゃん。てか、〇〇(あなた)居たんだ？」と言われる始末。「あれ、もう起きてたの・・・？ 珍しいね??」

あなた「ねえ・・・どうしたの、そのクマ。夜更かししすぎちゃった？」
主人公「そんなトコ。ぜんぜん眠れなくてさ。不眠症って言うのかな・・・」
あなた「可哀想・・・じゃあ、わたしがその不眠症を解消してあげる！」

おもむろに彼のベッドに潜り込むあなた。驚く主人公。

主人公「えっ・・・どうしたの〇〇？ 急に隣になんか来ちゃって・・・」
あなた「寝かしつけてあげるってこと！ ほら、お姉さんに甘えていいんだよ。おいで～。ぎゅ～して、アタマよしよししてあげる～♪」
主人公「行かないよ！ 幼児か、僕は！」

あなた「じょ、冗談だってば。わたしだって恥ずかしいんだからね？」

ドキドキ。緊張感があなたを襲います。いまからあなたが彼に施す寝かしつけ方法は——『認知シャッフル睡眠法』。

ランダムに単語を言っていって、そのイメージを無限に行うことでいつの間にか眠ってしまう・・・というのが、認知シャッフル睡眠法なのだが、この日、彼女が施す『認知シャッフル睡眠法』はただのそれではなく——

「**一見ふつうの単語だけれど、想像力が豊かであれば「えっち」に聞こえてしまう単語のみで構成された——『えっちシャッフル睡眠法』だったのです。**」

【あらすじ 演じ方】

①「あれ、もう起きてたの・・・？ 珍しいね??」

→ちょっと驚いた風をお願いします。

②「ねえ・・・どうしたの、そのクマ。夜更かししすぎちゃった？」

→心配そうをお願いします。

③「可哀想・・・じゃあ、わたしがその不眠症を解消してあげる！」

④「寝かしつけてあげるってこと！ ほら、お姉さんに甘えていいんだよ。おいで～。ぎゅ～して、アタマよしよししてあげる～♪」

→自信満々をお願いします。

④は「おいで～」から猫撫（ねこな）で声をお願いします。

⑤「じょ、冗談だってば。わたしだって恥ずかしいんだからね？」

→焦りながらをお願いします。

シナリオもこんな風に進行していきます。

この感じで良さそうであれば、シナリオをお渡しいたします。